

第81回 マラソン大会



男子(33km)午前9:30スタート
女子(20km)午前9:40スタート



男子33kmスタート! 女子20kmスタート!



マラソン大会ポスター



1 男子
2年4組 2...10...33
倉田 浩平

2年目のマラソン大会だったので、コース内容や、きついポイントも把握できていました。そのため昨年よりもリラックスして走ることができました。残り8キロにある坂まで余裕を持って走る予定でしたが、思い通りにいかず、ラスト5キロからのペースが落ち込んでしまいました。それでも最後まで粘って走れたので良かったです。支えてくれた仲間感謝しています。最後のマラソン大会を良い形で終わらせ、とても嬉しいです。



1 女子
2年6組 1...26...59
金丸 遥香

今回のマラソン大会を通して、改めて自分の周りの温かさを感じました。スタート前は、不安と緊張で押し潰されそうでしたが、沿道の保護者の方々や地域の皆さんの温かい声援のおかげで、最後まで自分のペースで走り抜くことができ、一位という結果を残すことができました。このマラソン大会で得たものを日々の学校生活や部活動に活かしていきたいと思っています。

マラソン大会 ベスト10

1位	倉田 浩平 (陸上競技部)
2位	富松 将一 (陸上競技部)
3位	宮崎 大知 (野球部)
4位	宮崎 大知 (野球部)
5位	宮崎 大知 (野球部)
6位	宮崎 大知 (野球部)
7位	宮崎 大知 (野球部)
8位	宮崎 大知 (野球部)
9位	宮崎 大知 (野球部)
10位	宮崎 大知 (野球部)



1位でゴールめっちゃ最高!!



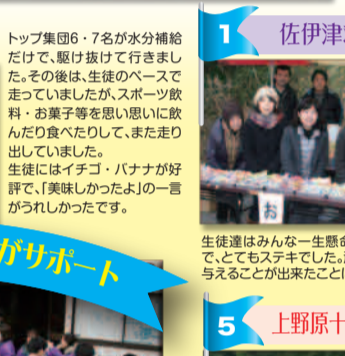
3 二江救護所のスタッフ

「お腹が空いた!」と来る子ども達が多く、例年よりパンが出て、嬉しく思いました。



2 鬼池救護所のスタッフ

トップ集団6・7名が水分補給だけで、駆け抜けて行きました。その後は、生徒のペースで走っていましたが、スポーツ飲料・お菓子等を思い思いに飲んだり食べたりして、また走り出していました。生徒にはイチゴ・バナナが好評で、「美味しかったよ!」の一言がうれしかったです。



1 佐伊津救護所のスタッフ

生徒達はみんな一生懸命で、きつい道に明るくさわやかに、とてもステキでした。頑張る生徒達にちょっとでも「元気」を与えることが出来たことに、大きな喜びを感じた一日でした。



5 上野原十字路中継所のスタッフ

まだまだみんな元気いっぱい。笑顔を見せる子どもが多く、走れない係の子も役目をこなしながら、応援を頑張りました。



4 手野救護所のスタッフ

どの子も素直でかわいく、お菓子や果物を食べて喜んでくれたのが嬉しかったです。伝統あるマラソン大会がこれからも子ども達の思い出に残る素晴らしい大会となるよう、頑張って協力していきます。



6 城河原救護所のスタッフ

小雨がばらつききましたが、何とか業務を終えることが出来ました。子どもたちはそれぞれのペースで走り、みんな楽しそうでした。



7 本町救護所のスタッフ

最後の方なので、負傷する子もいて、手当をしました。「頑張れ!」と声をかけると、元気を振り絞って走り出してくれました。



頑張るランナーを保護者がサポート



保健体育委員長
松岡 和士

2月9日の肌寒い中、天草高校伝統の第81回マラソン大会が開催されました。男子33km・女子20kmという未知の世界に挑む生徒達に感動を覚えました。額に汗して必死にゴールを目指す生徒達、それに声援を送る沿道の声、またその声援に勇気を貰い走り出す生徒達、美しい光景を見ることが出来ました。今大会は多くの保護者の皆さんにご協力を頂きまし

ボランテア



文化広報委員
木下 直文

手元の辞書には、ボランティアとは「報酬を目的としない、自分の労力、技術、時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉増進のために活動」とあります。このような活動に参加し、また企画すること、いろいろな経験や多種多様な方々との出会いにより人間性の向上に繋がります。また近年の「企業が求める新卒者の人材」は、語学力・知識力よりも自発性・コミュニケーション力・忍耐力を兼ね備えた人材であると聞きます。このような力はボランティア活動において無意識に身につくのではないかと考えます。また大学受験、特に推薦入学での受験も評価の一つになっている傾向があります。勉強・部活動ももちろん大切ですが、ボランティア活動への参加を「家庭でもすすめていきましょう。最後にボランティアは「報酬を目的としない」とありますが、人としての「学び」「気づき」それによる「成長」という報酬を得ることが出来るのだと思います。



2年2組
原田 桜子



2年6組
磨田 依美里

私は昨年、阿蘇青年の家で行われた国際ボランティアワークキャンプに参加しました。国際留学生の大学生の方や他校の生徒の方々と世界の食について話し合ったり、アイスブレイキングとしてみんなで一緒にピザを作ったりしました。ともに話し合ったり食事しながら英語や韓国語を使ったりコミュニケーションをとることで、日本とは違った他国の文化を知りました。宗教の関係上、ピザに使うベーコンを食べない人がいることはその一つです。3日間の活動の中で食の大切さや他国の伝統や文化、貧困差について学びました。また、何よりもこうしてボランティアに参加し異文化に触れ国際交流できたことで自分自身の考え方が変わり、新しい目標を持つことが出来ました。今回のボランティアは私にとっても有意義なものになりました。ね備えた人材であると聞きます。このような力はボランティア活動において無意識に身につくのではないかと考えます。また大学受験、特に推薦入学での受験も評価の一つになっている傾向があります。勉強・部活動ももちろん大切ですが、ボランティア活動への参加を「家庭でもすすめていきましょう。最後にボランティアは「報酬を目的としない」とありますが、人としての「学び」「気づき」それによる「成長」という報酬を得ることが出来るのだと思います。